

**製品名: Pin1 (リン酸化Ser16) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05249**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	18kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PIN1
別名	PIN1; Peptidyl-prolyl cis-trans isomerase NIMA-interacting 1; Peptidyl-prolyl cis-trans isomerase Pin1; PPlase Pin1; Rotamase Pin1
遺伝子 ID	5300.0
SwissProt ID	Q13526
免疫原	抗血清は、ヒト Pin1 の Ser16 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

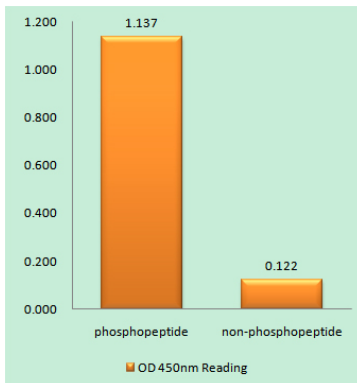
**背景**

ペプチジルプロリルシス / トランスイソメラーゼ (PPlase) は、ペプチジルプロリルペプチド結合のシス / トランス異性を触媒します。この遺伝子は PPlase の 1 つをコードしており、リン酸化セリン / スレオニンプロリンモチーフに特異的に結合し、基質のリン酸化後の構造を触媒的に制御します。この PPlase によって触媒される構造制御は、細胞増殖、遺伝毒性およびその他のストレス応答、免疫応答、多能性の誘導と維持、生殖細胞の発生、神経分化、そして生存の制御に関する主要なタンパク質に大きな影響を与えます。この酵素は、アルツハイマー病や多くの癌の病因においても重要な役割を果たしています。この遺伝子には、複数の選択的スプライシングを受けた転写産物バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2011 年 6 月],触媒活性: ペプチジルプロリン (オメガ=180) =ペプチジルプロリン (オメガ=0) 。,ドメイン: WW ドメインは、STIL および MPHOSPH1 との相互作用に必須である。 ,機能: NIMA と相互作用し、その有糸分裂促進活性を減弱させることで有糸分裂を制御する必須 PPlase。異性化したプロリン結合の N 末端側の酸性残基を優先的に選択する。 pSer/Thr-Pro のシス/トランス異性を触媒する。 ,PTM: DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による) 。 ,類似性: 1 つの PpiC ドメインを含む。 ,類似性: 1 つの WW ドメインを含む。 ,サブユニット: STIL と相互作用する (類似性による) 。 MPHOSPH1 と相互作用する。 ,

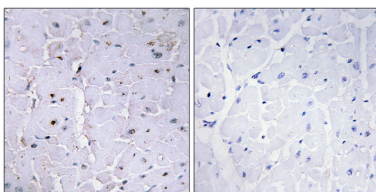
## 研究分野

RIG-I 様受容体;

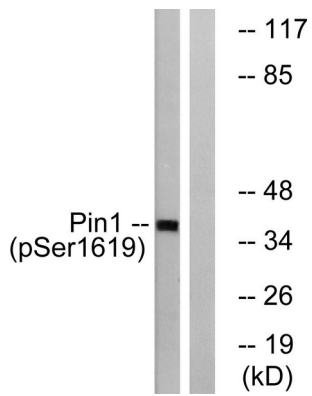
## 画像データ



Pin1 (リン酸化 Ser16) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



Pin1 (リン酸化 Ser16) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト心臓の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



Pin1 (リン酸化 Ser16) 抗体を用いた、インスリン 0.01U/ml 15分処理した COS7 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。